

アヒカハ 合河 江沼郡濁廻に屬する部落。明治中毛合・河尻を合併したものである。

アヒカハ 相河 ↓アイコ 愛河。

アヒカハシヨウトウ 相川松壽 安政六年に生まる。初め明倫堂に學び、明治の後大坂に往いて藤澤南岳・土居香國に從遊し、更に高村光雲に彫刻を習ひ、浮丸彫を案出してフエノロサに知られ、屢海外に出品して名聲を博した。昭和五年十一月三十日歿、享年七十一。

アヒカミ 相神 羽咋郡富木院に屬する部落。  
アヒカミノヤロク 相神の彌六 前田利家能登入國の頃、羽咋郡相神なる藤右衛門の子に惣領彌五郎・次男彌六があつた。彌五郎は天正十年知行百四十俵を賜ひ、上島氏を稱するを許され、次いで柳ヶ瀬役に從うて死んだ。弟彌六家を繼ぎ、高八十俵を扶持せられ、十村を命ぜられたが、後その扶持高は減じて五拾俵となり、更に三拾俵となつた。慶安四年四代目彌六の時拾俵を増し、承應四年その隠居するに及んで、五代目彌六に持高之内壹町三反百歩を扶持せられ、十村の職を襲がしめられた。

アヒカミノワカミヤ 相神の若宮 羽咋郡相神に鎮座する小社で、舊祠であるといふが、之を式の相見神社であるといふのは、邑名の類似から來た牽強である。

アヒサカ 相坂 羽咋郡富木院に屬する部落。

アヒサキ 遺崎 珠洲郡の東北端で、一に

鹽津崎ともいふ。高さ三六米、長さ二〇〇米。遭崎の北五〇〇米の海中に五礁相連り、附近の難航地である。元祿十六年寺家村肝煎書上に、『相崎と申は宿崎・金剛崎の間に有之崎に御座候故、相崎と申由申傳候。』と見える。

アヒスガダケ 相圖ヶ嶽 ↓ヒトモシヤマ 火燈山。

アヒソメガハ 逢初川 石川郡富樫庄四十萬なる蓮如塚の山麓から流れ出で、善性寺の屋敷腰を繞る小川を、邑人は逢初川といつてゐる。又藍染川とも書き、此の川に産する鮎が藍色を帯びるが故に名づけるともいふ。

アヒタイウケチ 相對請地 金澤で武士又は町人が御郡方に屬する地域を借入れ使用してゐる時は、それを相對請地と稱した。前田利常施治の時まで、郡地に町家を建てれば悉く地子町に編入したが、萬治元年利常が薨じて小松在住諸士の金澤に移住するに及び、人口増殖して町地が狭くなつたから、郡地のまま百姓から借入れで使用するのが多く、ここに初めて相對請地の名を生じた。しかも當時は尙請地を設定することが自由であつたが、寛文五年村吏から相對請地の町民を取締ることの困難なる事情を訴へて、之を町奉行の支配に移さんことを請うたので、藩は之を許し、次いで翌六年八月、藩士の新に百姓地を請けて茶園を營み又は工作することを得ずと規定し、若し已むを得ざる時は、組頭の副申を得て御算用場に出願し、然る後百姓相對を以て請地すべしとの制限を置いた。しかし町人に在つては尙盛に郡地に向かつて發展したので、貞享四年・享保十年・寶曆十年・文政四年等の調査によつてそれを城下に編入した

アヒタキ 相瀧 能美郡輕海郷に屬する部落。郷村名義抄に、この村端を流れる大日川に昔大瀧があつて、鮎がそこで留つたから鮎瀧といひ、それが相瀧に變つたので、正保・寛文・貞享の高辻帳には相瀧村とあると記する。一説には堂川・大日川の合する所であるから名づけたともある。

アヒタキガミ 相瀧紙 能美郡相瀧・神子清水に産する。元祿七年書上帳に、相瀧村・神子清水村百姓之内五七人充冬春の間に漉く厚紙を相瀧紙といふとある。蓋し初は相瀧のみ産したのであるが、神子清水に良質の水があるから、その地でも製することになり、尙原名を傳へたのであらう。相瀧紙は純良の格を原料とするから、紙質強靱で包装に適し、その數枚を合はせたものは、専ら帳簿の甲紙として使用せられた。

アヒノキ 相ノ木 石川郡中村郷に屬する部落。古跡考に、昔はこの村の家ごとの垣根に桃樹を植ゑ置き、その實を取りて金澤へ賣出したとある。

アヒノハチベエ 相野八兵衛 ↓アキハチベエ 阿井八兵衛。

アヒミ 相見 羽咋郡麥生の古名で、一に

ことがある。相對請地に對しては地子米を百姓に拂ふべきであるが、それは時價に換算して銀子で仕拂ふ例であつた。

アヒタイカンゲ 相對勸化 寺院等の勸進によつて隨意に奉加を求めしめるをいふ。相對勸化を行ふことは、元祿三年卯辰西養寺が自力を以て伽藍を造營し難きを以て、領國內に奉加を勧め、町方・御郡方の志趣次第之に應ずるを得しめたるに初る。

アヒミジンジャ 相見神社 羽咋郡麥生に鎮座する。式内等舊社記に、『相見神社。式内一座。大海郷麥生村相見山鎮座。祭神海童神。今稱相見權現。』といひ、能登誌には『相見村相見神社は近郷の惣社にて、宮森は松はへの大なる岡山にて、田地の中にあり。祭神荒海の神也。海童神とも申奉るなり。』とある。今は大國主神を祭神とする。

アヒミヤマ 相見山 羽咋郡麥生の田園中に在る岡山で、相見神社の鎮座する松林をいふ。山といふが、他の峰嶺ではない。

アヒヤク 相役 ↓クミアヒガシラ 組合頭。

アフギノミネ 扇ノ峰 ↓ヒノミノミネ 火ノ御子ノ峰。

アフギバナ 扇鼻 鹿島郡能登島久木の東方にある小岬。

アフギマツ 扇松 江沼郡月津にあつた。江沼志稿に、中古まで扇松といふ松があり、枝葉繁茂してその形扇に似て居たが、今は枯れてなくなつたとある。

アフミチヨウ 近江町 金澤の町名。俗に尾山八町の一で佐久間盛政時代に初るといふ。舊傳に、昔近江の國人等が當國に來つて

大海ともいひ、大海郷の本郷である。能登誌に、『相見村は末森の禁也。則相見神社立給ふ。』と見える。

アヒミガハ 相見川 源を羽咋郡平床の北東針山に發し、西流すること二軒で上吉田の東方に至り、西南に流れて今濱の南から海に注ぐ。流程約一〇軒。地圖に今濱の南に寶達川と記されたものゝあるのは相見川の誤である。

アヒミジンジャ 相見神社 羽咋郡麥生に鎮座する。式内等舊社記に、『相見神社。式内一座。大海郷麥生村相見山鎮座。祭神海童神。今稱相見權現。』といひ、能登誌には『相見村相見神社は近郷の惣社にて、宮森は松はへの大なる岡山にて、田地の中にあり。祭神荒海の神也。海童神とも申奉るなり。』とある。今は大國主神を祭神とする。

アヒミヤマ 相見山 羽咋郡麥生の田園中に在る岡山で、相見神社の鎮座する松林をいふ。山といふが、他の峰嶺ではない。

アヒヤク 相役 ↓クミアヒガシラ 組合頭。

アフギノミネ 扇ノ峰 ↓ヒノミノミネ 火ノ御子ノ峰。

アフギバナ 扇鼻 鹿島郡能登島久木の東方にある小岬。

アフギマツ 扇松 江沼郡月津にあつた。江沼志稿に、中古まで扇松といふ松があり、枝葉繁茂してその形扇に似て居たが、今は枯れてなくなつたとある。

アフミチヨウ 近江町 金澤の町名。俗に尾山八町の一で佐久間盛政時代に初るといふ。舊傳に、昔近江の國人等が當國に來つて